

# 辺野古に土砂投入



埋め立て用土砂が投入された沖縄県名護市辺野古沿岸部の区域（中央手前、小型無人機から）

## 沖縄県、政府に対抗へ

政府は14日、米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の移設先、名護市辺野古沿岸部で土砂投入を始めた。埋め立ては本格化し、辺野古移設に反対する沖縄県が反発を強めるのは必至。県は来年2月に実施する県民投票や規制強化などで対抗し、工事を食い止める考えだ。日米両政府による1996年の普天間返還合意から22年を経て、普天間移設は新たな局面に入った。

土砂を投入したのは、埋め立て予定海域

南側の護岸で囲まれた約6・3鈔の区域。土砂を船で護岸に運び、工事用車両に積み替えた後で海中へと投入した。

防衛省の計画では、埋め立て予定海域は全体で約160鈔。昨年4月に第1段階として、施設の外枠となる護岸の造成に着手した。当初は埋め立てに要する期間は計5年としていたが、工事手順の変更などによりずれ込む公算が大きい。



発行所 秋田魁新報社  
〒010-8601  
秋田市山王臨海町1番1号  
©秋田魁新報社 2018年

# 号外

購読申し込み

0120-13-1231

電子版

www.sakigake.jp

モバイル

m.sakigake.jp



詳しくは「秋田魁新報」朝刊、「秋田魁新報電子版」さきがけMOBILEをご覧ください。